

入選 福岡県 佐藤様 (高校生 男性)

「年金」について、これまで自分はその意味や目的、重要性についてあまり考えたことがなかった。年金は自分が高齢者になってから関わりができるもので、今の自分とは全く関係がないものだと思っていた。しかし、今回この作文を書くにあたって、年金についてしっかり考えてみたところ、先に結論を述べると、それは今の自分の生活に深く関わっていることを知ることができた。その発見について書こうと思う。

そもそも、「年金」とは何かと考えたとき、最初にそれは「収入のない（少ない）高齢者が生活するために、国から生活費として支給されるお金」だと考えた。おそらくそれは一般的なイメージであろうし、正しい部分もあるだろう。しかし、本当にそれだけの意味しか持たないものなのだろうか。

まず、年金を支給するのは国だが、そのお金は実際には、労働者が国に納めたものである。なので、結果的には、自分達から高齢者にお金を譲り、高齢者の生活を支えることができるシステムなのだ。しかし、自分達が相手に直接お金を手渡すわけではないので、あまりその実感が湧かず、その効果を感じられない人も多いと思う。しかし、そのシステムについて理解すれば、自分達が年金を納めるときの気持ちも変わるはずだ。

そして、高齢者が生活するためのお金、というイメージも、もちろん間違っ
てはいない。けれど、年金の効果はそれだけではないと思う。高齢者の生活を
支えることによって、高齢者が健康的に過ごすことができるようになると、例
えば、地域の集まりなどに出席することができるようになって、地域の人々との
交流がさかんになり、その地域で自分達も過ごしやすくなると思う。また、
実際に健康的に過ごしている高齢者を目にすることで、将来は自分も、年金に
よって周りの人々に支えられながら過ごすことができる、というように、自分
の老後生活に安心感を持つことができるようになり、その安心感によって、今
の生活も落ち着いて過ごすことができるようになると思う。将来に安心感を持
って生活するのと、安心感を持たずに生活するのとでは、人生も大きく変わっ
てくるはずだ。

実際に、自分の住んでいる地域にも、とても元気に過ごしておられる高齢者

はたくさんいる。登校中に挨拶をしてくれたり、横断歩道を渡る小学生のために旗を持って誘導してくれていたり、近所の散歩ロードを元気そうに散歩していたり、グラウンドで他の高齢者の方々とゲートボールを楽しんでいる姿もよく見かける。そのとき自分も、自分が高齢者になったら、ああいう風に元気に、楽しく過ごしたいなあ、と思う。そして、年金がその生活を支えてくれていることが分かったので、まずは自分が、自分の身の周りにはいる高齢者の方々が、元気に過ごすことのお手伝いをさせてもらおう、と思った。そして、数十年後には自分も若い世代に支えてもらって、その時には若い世代に自分の元気な姿を見せて、将来に対して安心してもらおう、と思った。

もしも年金というシステムがこの国になれば、仕事を引退して収入が途絶えた高齢者の生活は、とても苦しいものになってしまうだろう。おそらく、それによって今のような安定した生活を送ることが難しくなり、外に出る機会も減って、地域との交流も減ってしまうかもしれない。今、この国では、集合住宅など、他人との交流が薄くなってしまいがちな場所での、高齢者の孤独死や、餓死などが問題になっている。年金によって、これらの問題は解決することができると思う。

これらのことから、自分は、年金は、高齢者の生活を支えるだけでなく、「誰もが安心して、地域で楽しく過ごせる社会をつくる力」も持っている、と思う。

そして、年金はただの自分達の「積立金」ではなく、よりよい社会づくりのための「投資」だと思う。お金を将来のために蓄える点では、貯金と似ているかもしれない。しかし、これらの二つで決定的に違うところは、貯金はほとんど自分や身内などのために使われるのが多いのに対し、年金は多くの人々のために使われることができるところだ。年金には、自分の生活だけに捉われない、他人への思いやりがあると思う。

初めに述べたように、これまで自分は、今の自分の生活と年金には全く接点がない、とっていた。しかし実際には、年金は地域のつながり、将来の保障などの働きをして、自分の今の生活をも支えてくれていた。だから自分も、保険料を納めることを通して、他人や自分のより楽しい、幸せな生活のために貢献していきたいと思う。